

化粧品・医薬部外品の製造・販売を行っている

石田香粧は、自社ブランドで培ってきた自然派化粧品の研究開発と製造ノウハウを活かしたOEM事業を展開している。2009年には戸田工場

(埼玉県)をGMP対応の設計に改修し、品質・衛生管理体制を強化することで顧客満足

の向上を図った。石田尚志社長は改修後の変化について、「ナチュラル志向の化粧品は、近年の消費者ニーズにマッチしており、新たに化粧品業界への参入を目指す企業の商品コンセプトになりやすい。

また、商品イメージを大切にしている。工場を気にする顧客も多く、その受け皿になることで新規顧客が増えている。また、薬事規制への対応などOEMとしてのサポート領域が広がる。研究開発力の向上にもつながってきている」と語る。

同社はもともと石けん・化粧品卸業として1915年に創業し、化粧品ブランド「ロータス化粧品」(一部)

### 自社ブランドで培ったノウハウ強みにODM化を推進



石田社長

化粧品ブランド「ロータス」を起ち上げて本舗メーカとして歩みを進めた。終戦後は、現社名

「ロータス化粧品」を起ち上げるとともに、ヘア&ボディケア、メイクアップなど展開品目を増やして販売事業を拡大。70年代には和漢植物成分を配合した「同サ

### 石田香粧

増産体制を整えた。GMP対応の戸田工場では、製造室や充填室をクリーンルーム化し、品質保証の一環として応接室の窓から工場内が見える設計にしたことも特徴の一つだ。ハード面への投資が一段落し、今後は「営業・提案力といったソフト部分での底上げを図っていただきたい」(石田社長)という。

「店頭で気になる商品の製造販売元から当社を知り、電話をかけてくる顧客が以前より多くなっただ。最近では化粧品製造販売メーカとしての100年近い歴史が付加価値となり、依頼されるケースも増えてきたが、自らの強みを発信していく力がやや弱いと感じている。ユニークな素材を使った処方開発などを活かしながら企画提案力を高め、単なる受託製造ではない『ODM』化を推進している」

007年には埼玉県蕨市に大ロット対応の充填包装工場を新設し、設(1981年)。2



半世紀以上展開している自社ブランド「ロータス化粧品」(一部)